

20240310_大田原市史跡ウォーク

大田原城と城下町

大田原市文化振興課学芸員 山川千博

- 絵図を見ながら、
大田原城・城下町の、残っている部分(遺構)を探して歩こう！！

大田原城の基本構造

・大田原城の基本構造

- …東は蛇尾川の断崖(比高約30m)
- …北側は尾根を掘り切り、その堀底を奥州道中が通る。
- …西麓の平地(奥沢面)に奥州道中と大田原宿(城下)。
- …8つの曲輪(守られた平場)により構成される。



龍城公園に多くの人を訪れる。

大田原城跡
||
龍城公園

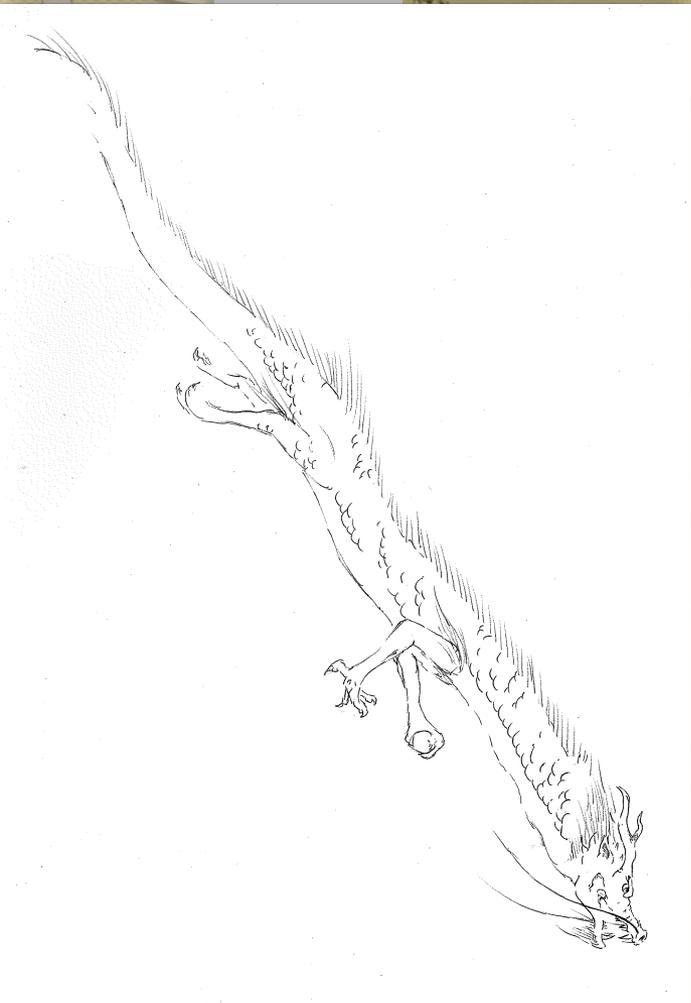


・展望台 …昭和37～60年



昭和33年4月13日撮影

•別称 …前室城、龍城・龍体城、蛇頭城



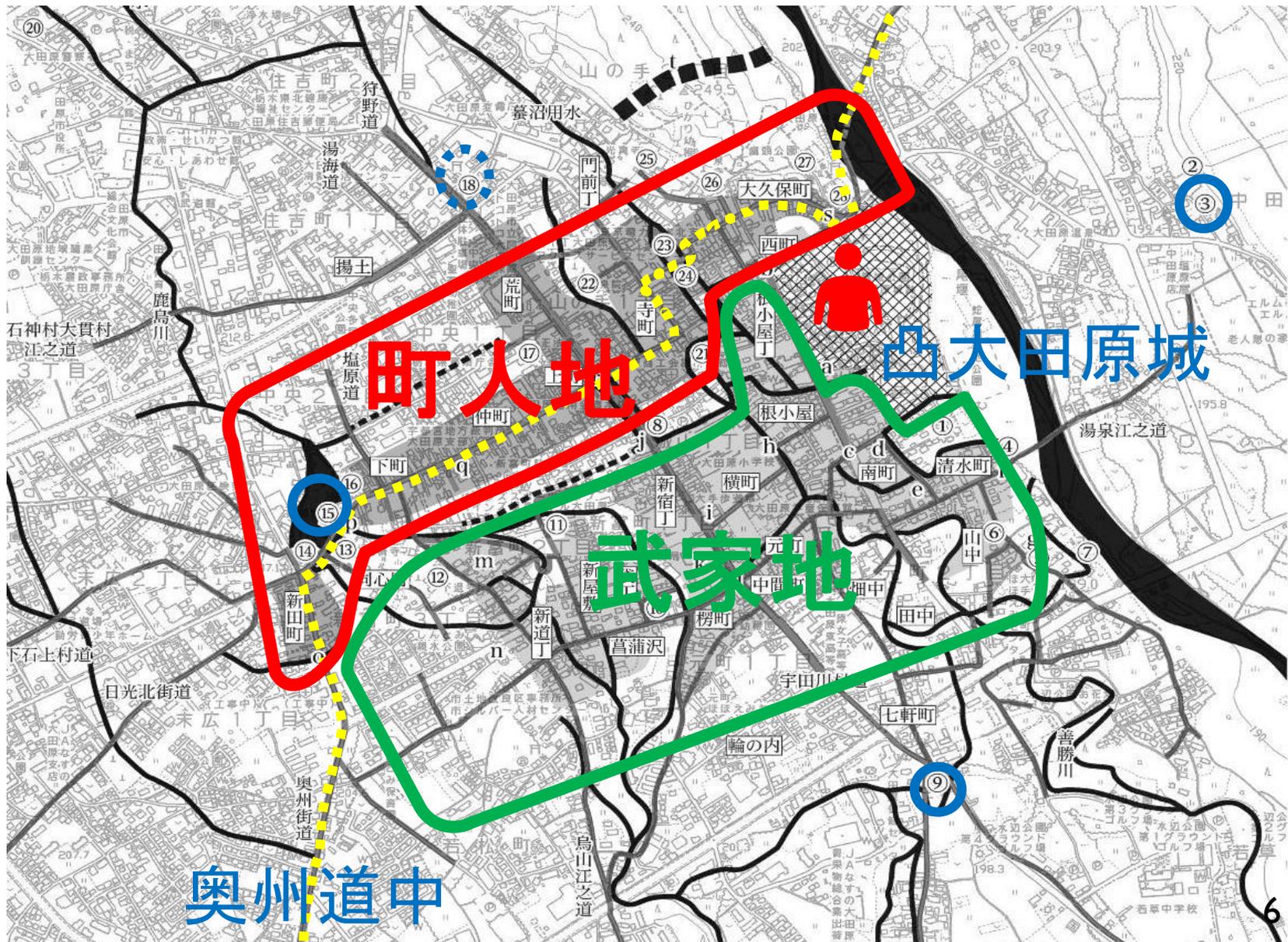
享和3年(1803)閏正月 拾間五分之分割絵圖(大田原城並郭内屋敷図)(大田原市那須与一伝承館蔵)

◎大田原城の歴史

- ・天文12年(1543)頃 …大田原資清が水口城から移り築城。以降330年間、大田原氏の本拠。
- ・天正18年(1590)…豊臣秀吉が奥州仕置で会津への途上に宿営(二泊)。
- ・慶長5年(1600) …関ヶ原合戦で徳川方の前線基地に。対上杉景勝で改修。
→大土塁や江戸堀の構築か。家康の命で、城内に石火箭を配備。
- ・寛永4年(1627) …幕府より米1,000石を、有事の際の詰米として預かる。
- ・江戸時代初期 …奥州道中の宿場町を取り込み城下町を整備。
- ・江戸時代 …記録上、城下で大小42回の火災あり。文政8年(1825)の火災では城内まで類焼。
- ・慶応4年(1868) …新政府軍の前線基地として会津藩の攻撃を受ける。
→歴史の重要な転換点で、たびたび表舞台に。
- ・明治4年(1871) …廃藩置県により廃城。
- ・明治19年(1886) …渡辺国武の所有となる。
- ・昭和12年(1937) …渡辺千冬が城地を大田原市に寄付。無辺堂公園。
- ・戦時中 …本丸土塁上に防空監視哨が置かれる。
- ・昭和36年(1961) …大田原市指定文化財(記念物・史跡)。龍城公園。野外音楽堂。

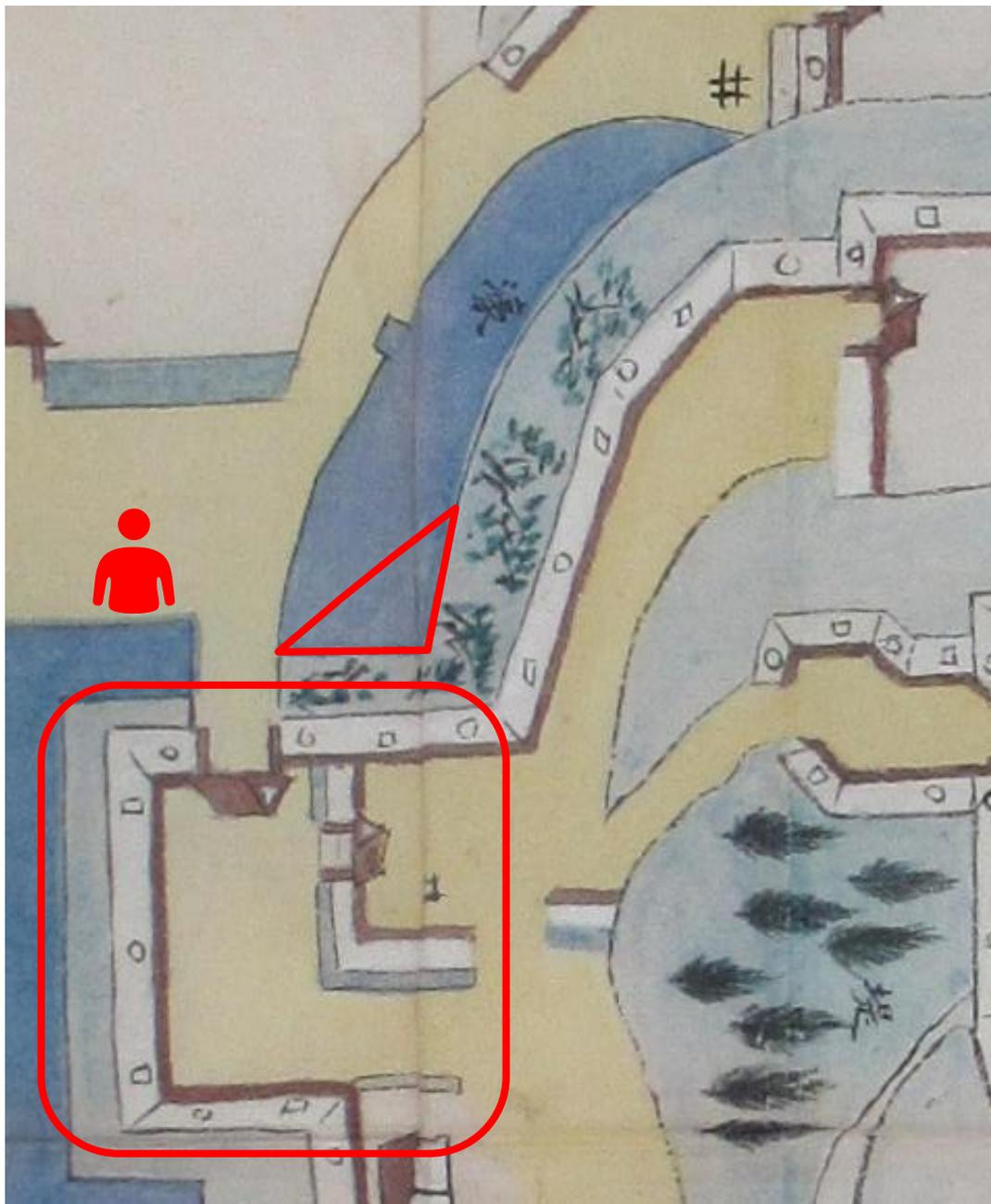
大田原城下町の概要

- 四つの結界 中央＝大田原城 東…③朝日観音 南…⑨刈切地藏堂
西…⑮下町薬師堂 北…⑱天満宮(?)
- 城下町は大きく分けると、武家地と町人地の2つに分かれる。



◎三日月堀
坂下門

・三日月堀 …坂下門の前面に掘られた水堀の一部。



・坂下門

…西曲輪 I から入る城の正面玄関で、柵形門の形態。

→戊辰戦争で会津藩兵を撃退したと伝わる最終防衛拠点。

大田原城土居石垣修補絵図
宝永7年(1710)閏8月(大田
原市那須与一伝承館蔵)

◎本丸下西曲輪の土蔵

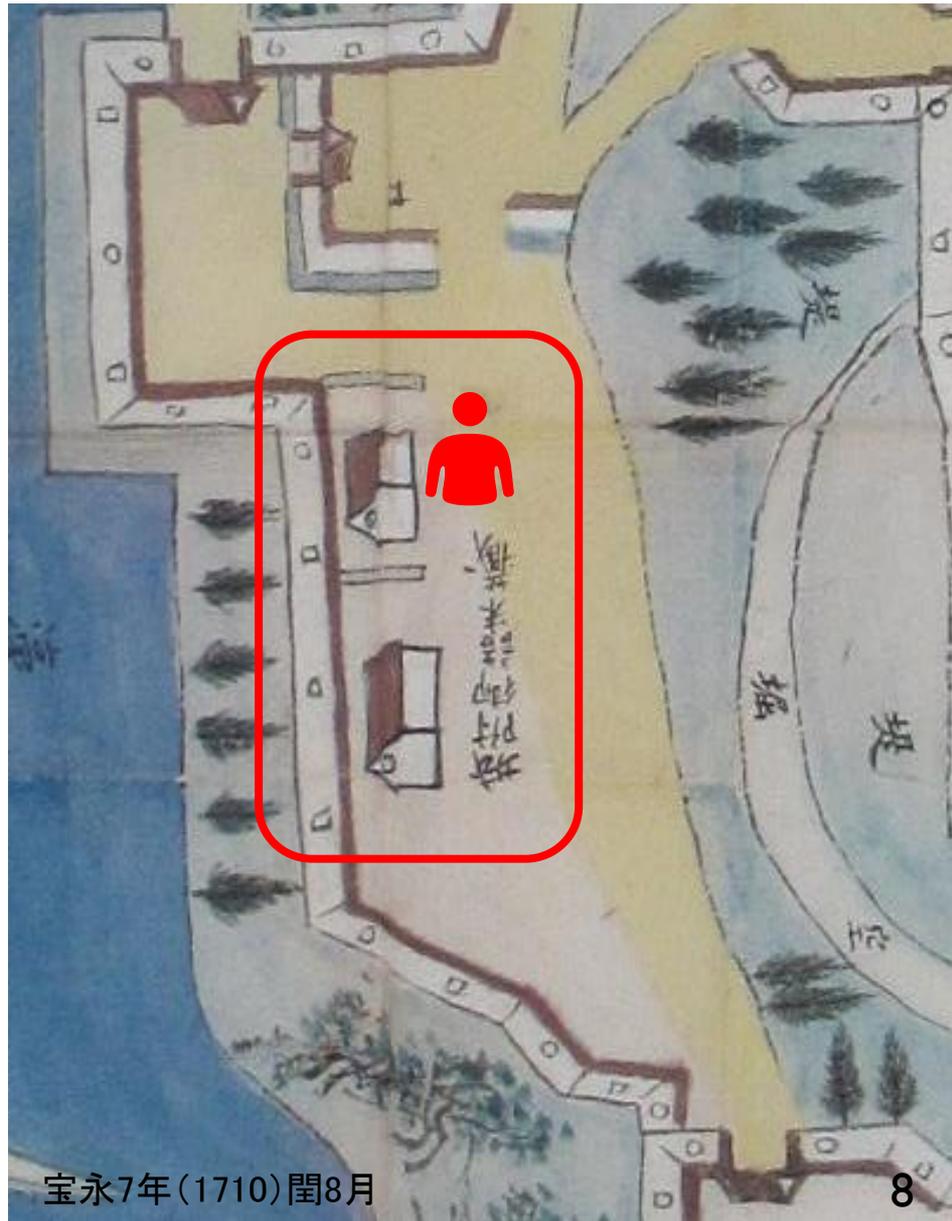
・2段の平場に、2棟の土蔵。

…「公儀ヨリ御預ケノ石火箭二挺」。(尊経閣文庫蔵野州大田原城図)

→慶長5年(1600)、上杉氏への備え。

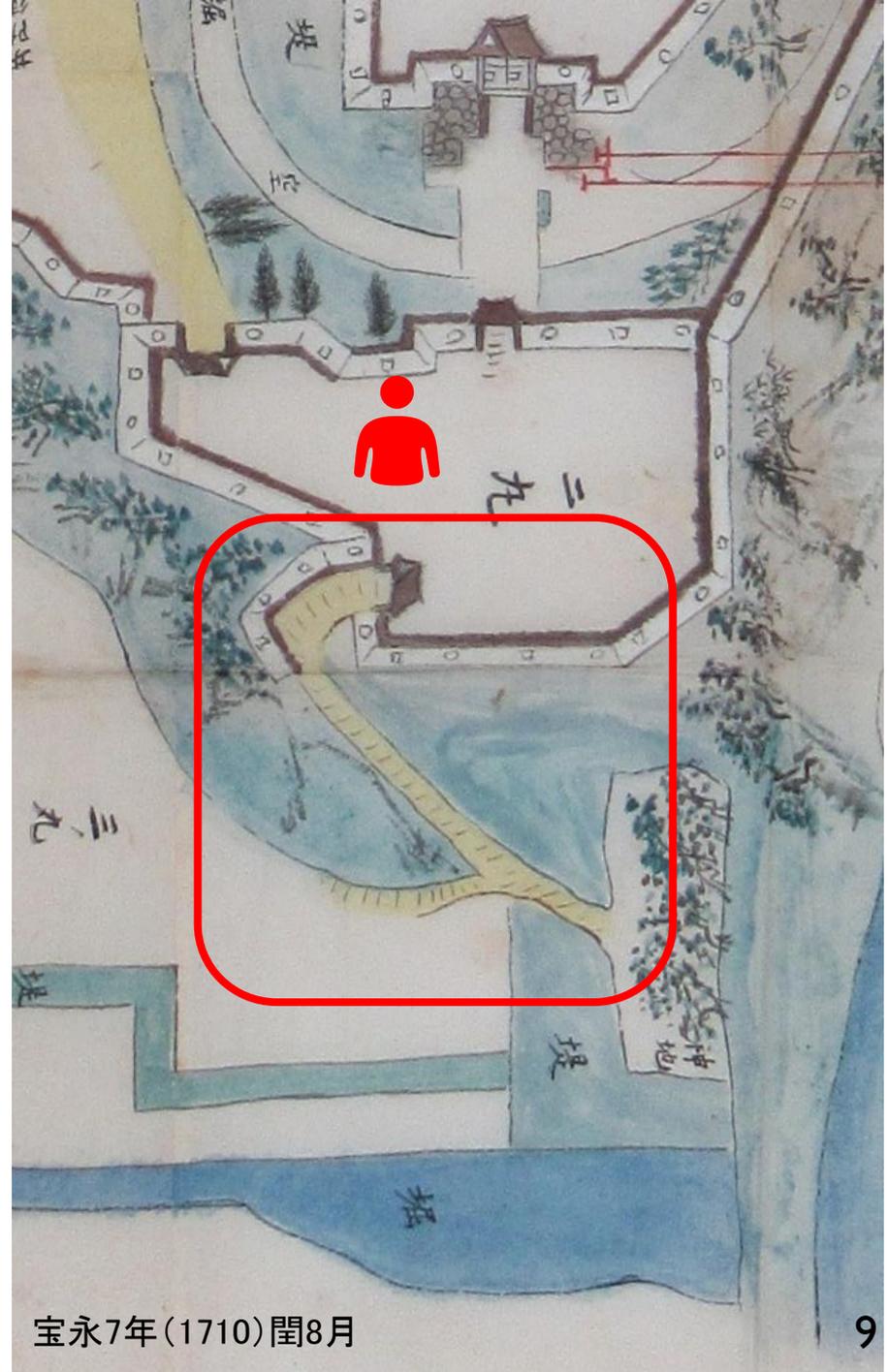
…「城附御詰米蔵」。

→寛永4年(1627)、幕府の兵糧1,000石を備える。



◎二の丸

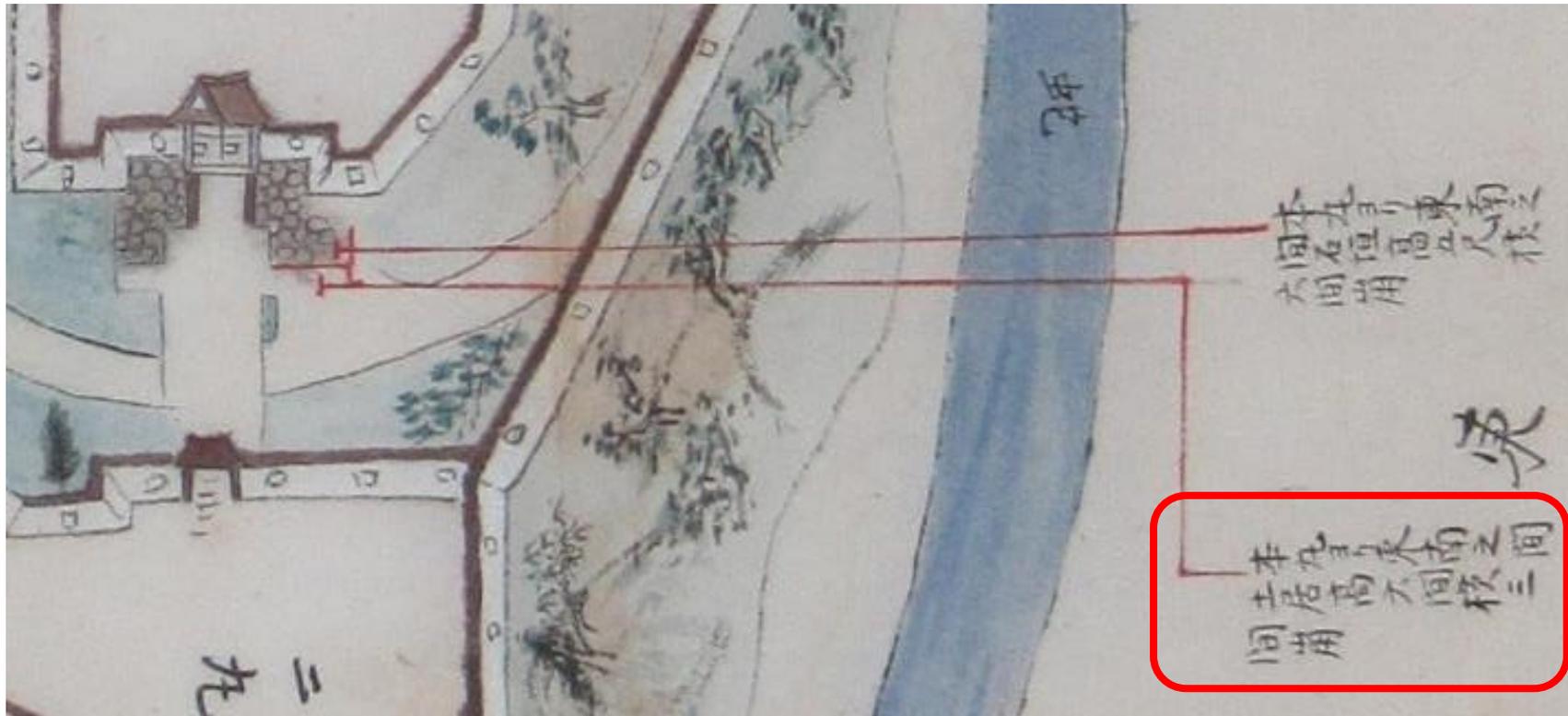
- 本丸の南を守備
- 三の丸と連絡する坂虎口が残る。



宝永7年(1710)閏8月

◎本丸表門(台門)

- 石垣を持つ重層の櫓門。城内唯一の石垣。
- 宝永7年(1710)の地震で崩落し修補。
…少なくとも高さ5尺(約1.5m)×幅6間(約10.8m)。

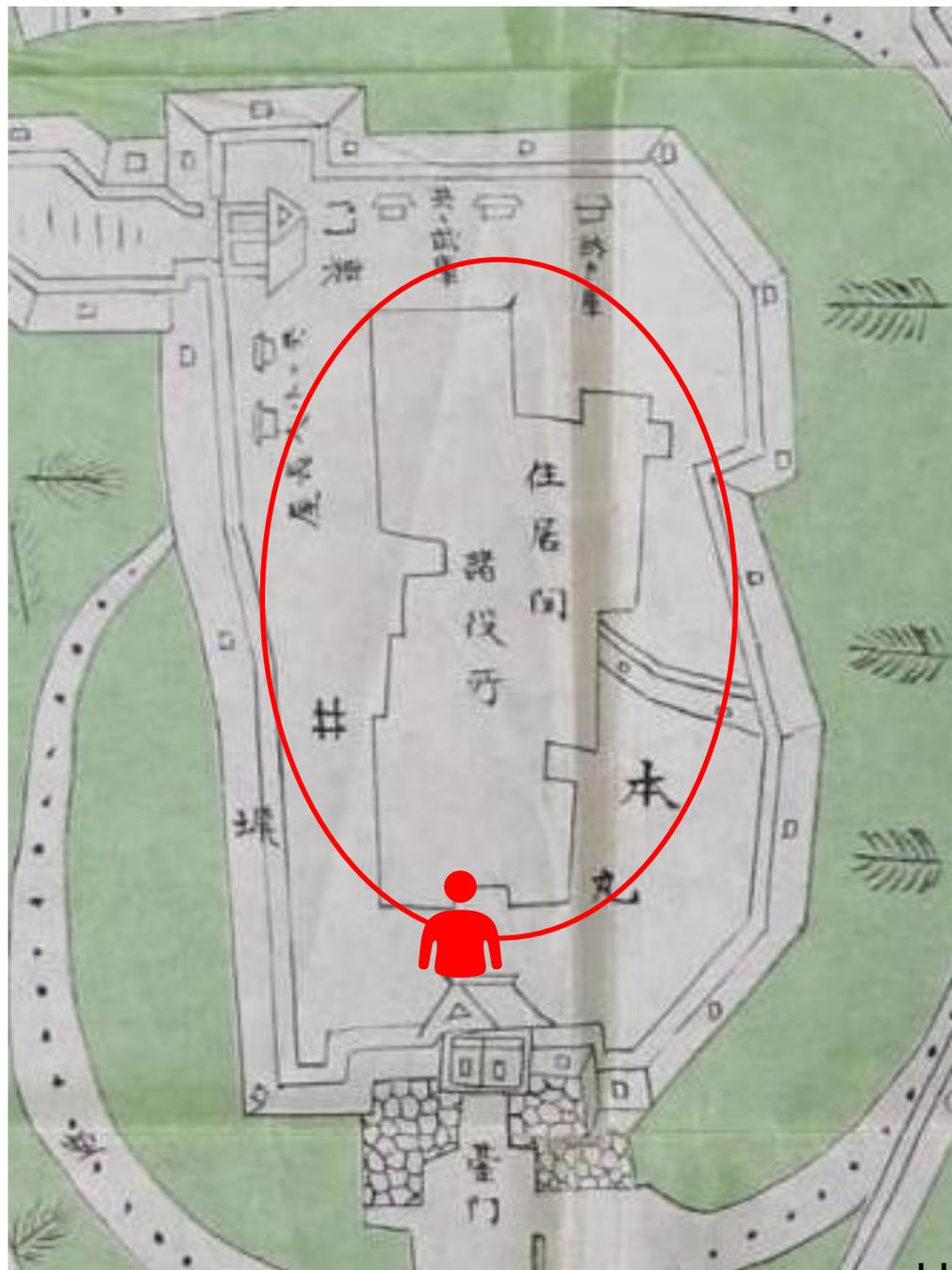


◎本丸御殿

・「住居間」(藩主の居住空間)と「諸役所」(藩庁)の一体型。

・構造…正面15間半(28.2m)、奥行26間(47.3m)の規模。藩庁として10部屋、居住空間として3部屋[益子1990]。

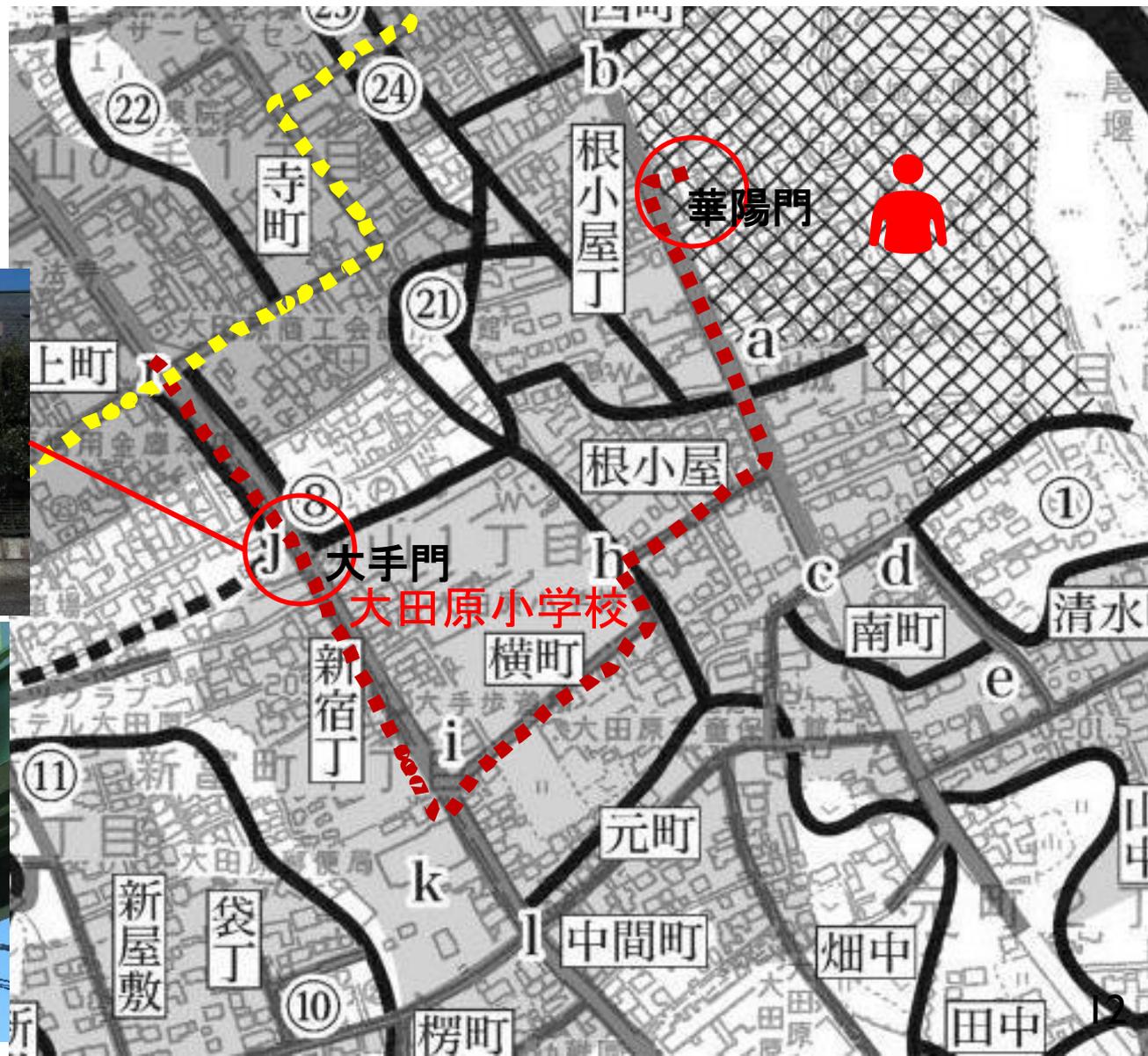
・井戸跡? …本来は深さ20m以上か



◎大手道

◎大手道＝正式な登城ルート

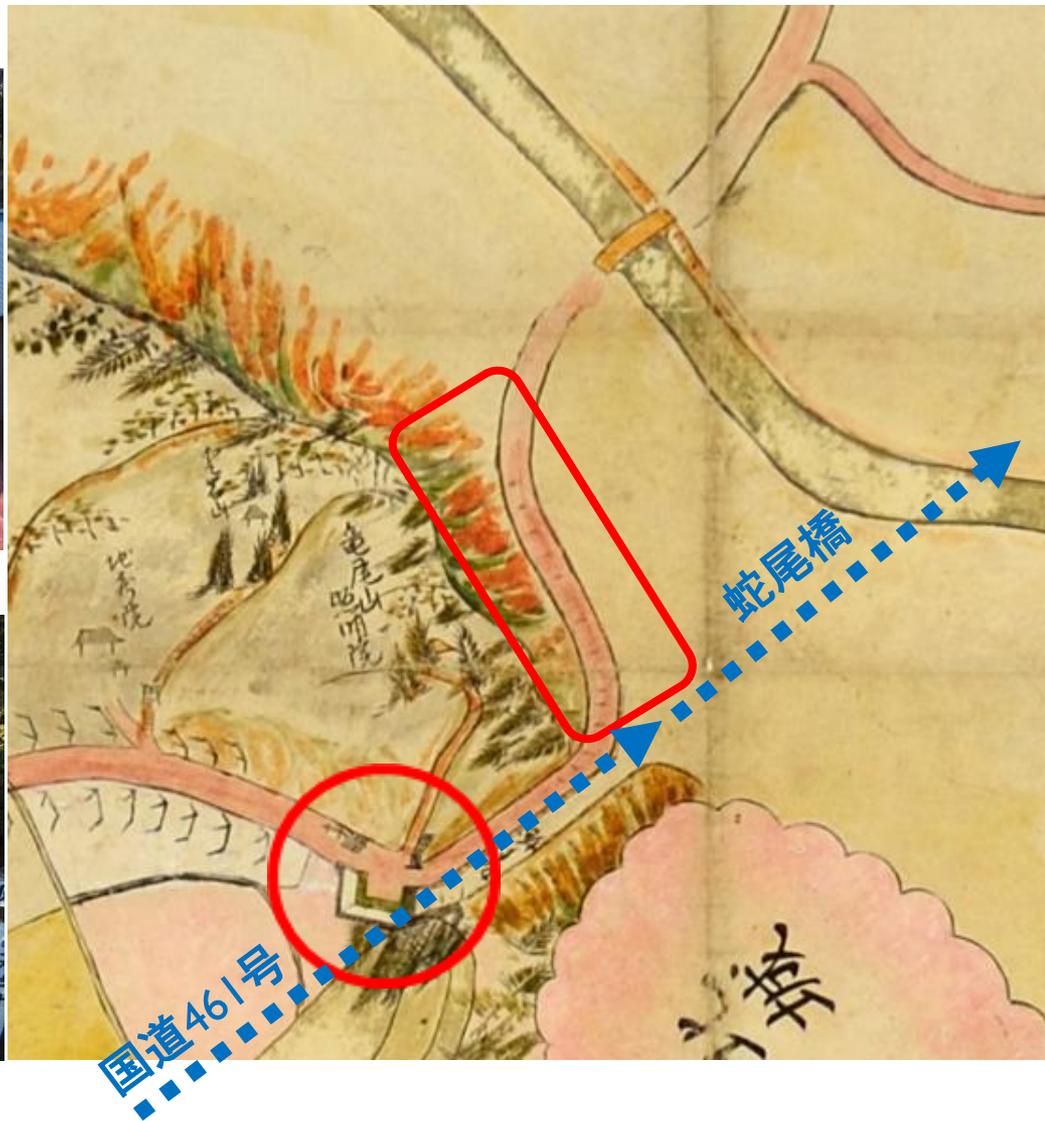
…奥州道中から金燈籠を南に折れ、大手門から新宿丁に入り、郵便局の手前で東に折れ、大田原小学校の南を進み、クランクを曲がり、華陽門から城内へ。



◎大久保木戸口

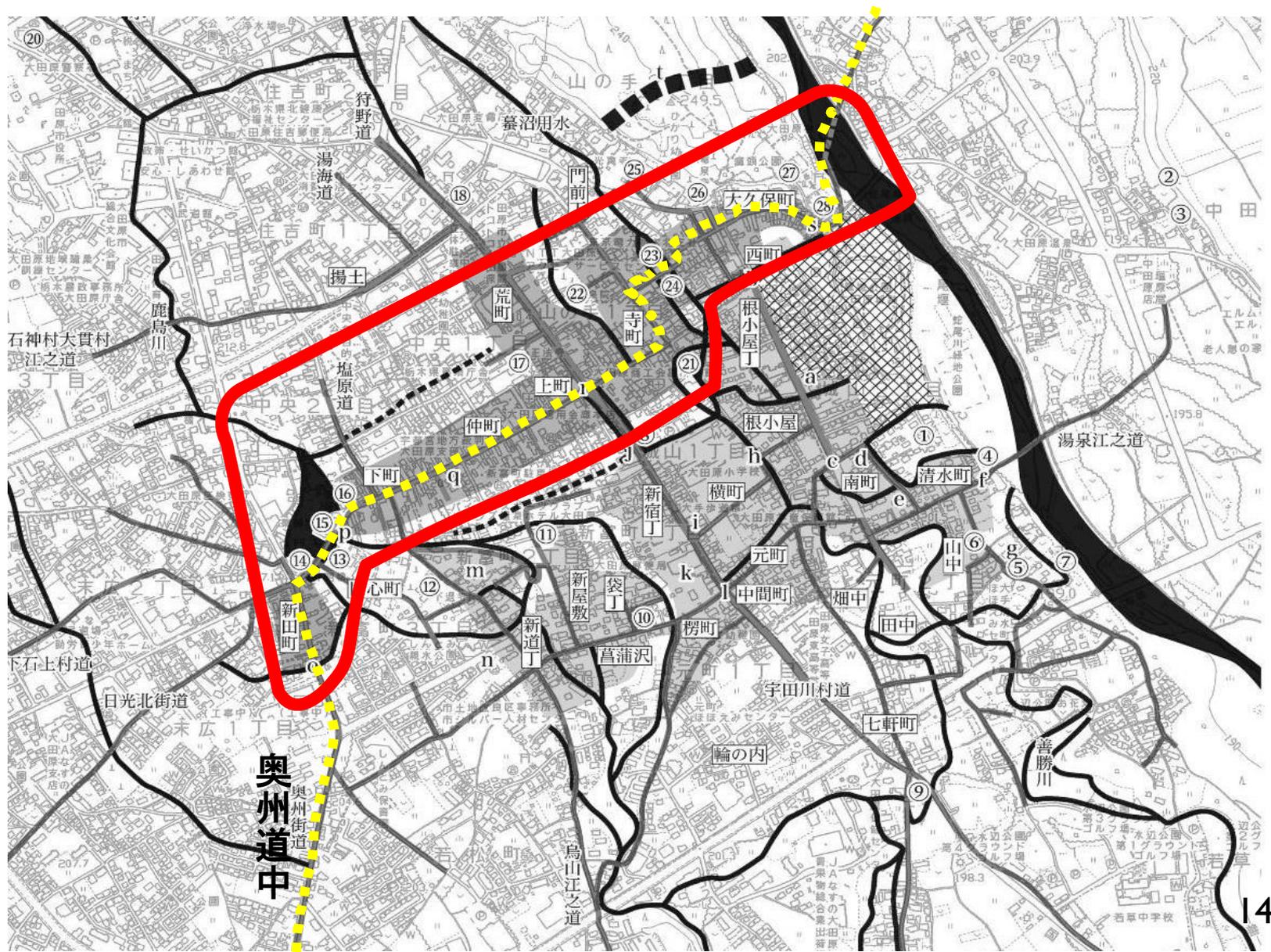
・大田原宿の東の出入口 … 枡形の木戸+堀底道で守備。

・宿の外側 … 木戸を出て、城と照明院との間の堀底を進み、龍尾山と蛇尾川の間
の細道を北上し、蛇尾川を渡河。



町人地・大田原宿。

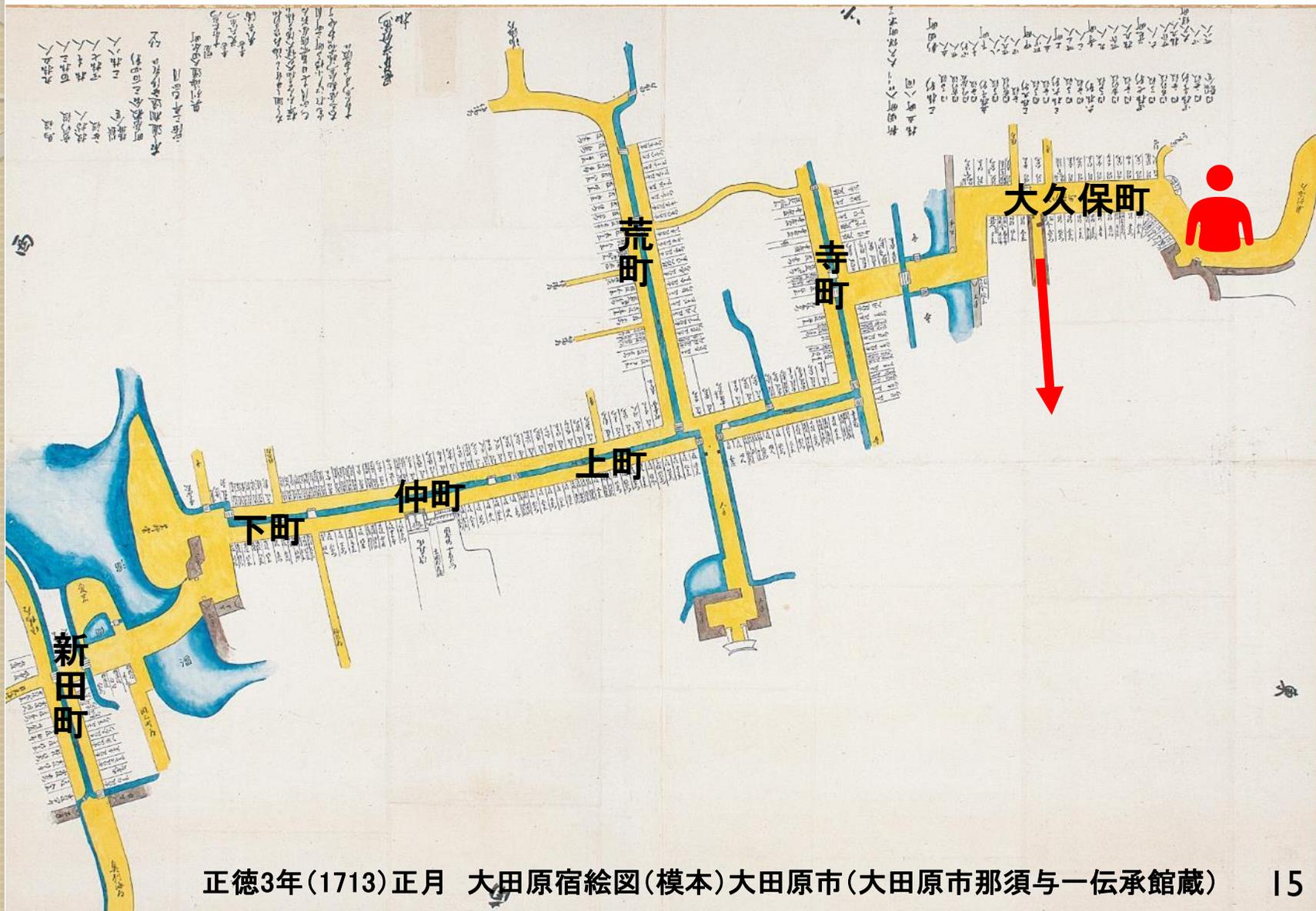
- …五街道の一つとして江戸初期に整備された「奥州道中」の宿場町(22/27宿)。
- 新田町～大久保町まで、15町8間(約1,650m)の長さ。



◎町人地

◎正徳3年(1713)の戸数

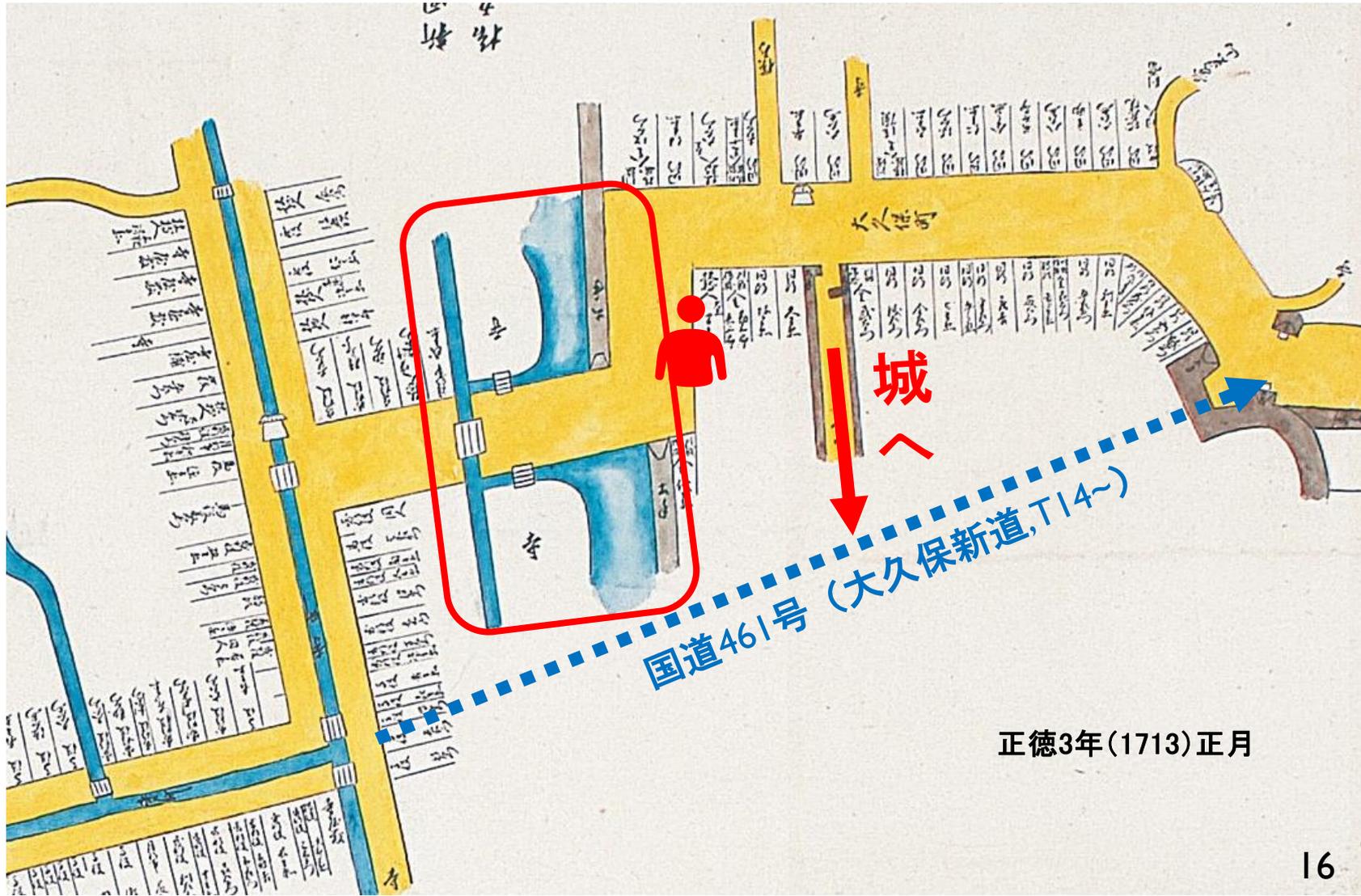
…新田町30軒・下町51軒・仲町39軒・上町36軒・荒町47軒・寺町60軒・大久保町41軒(No.15) = 計304軒。うち本陣1軒(年代により2軒)・脇本陣2軒。



◎大久保町～寺町

◎大久保町～寺町 …道を複雑に曲げ、城を防御&奥州道中を監視。
・城内に向かう裏道が分岐。大久保門から武家地へ。

◎暮沼用水 …天明年間(1780年代)に大田原城下まで延長。
→上性院・慈眼院の隣を流れ、城下の飲用水として武家地に注ぐ。



正徳3年(1713)正月

◎金燈籠

- ・常夜灯・道標。文政2年(1819)、町内安全の祈りを込めて、宿場中38人が寄進。
- ・数度の撤去・移動を経て、現在は3代目が交差点北西端に建つ(昭和54年～)



初代(昭和17年)



2代目(昭和30年)



上町交差点(昭和34年)

◎光真寺

- 天文14年(1545)創建。大田原氏の菩提寺、代々の墓所(市指定史跡)。
- 総門 …江戸時代中期に大田原城の城門を移築したものと伝わり、その後再建。



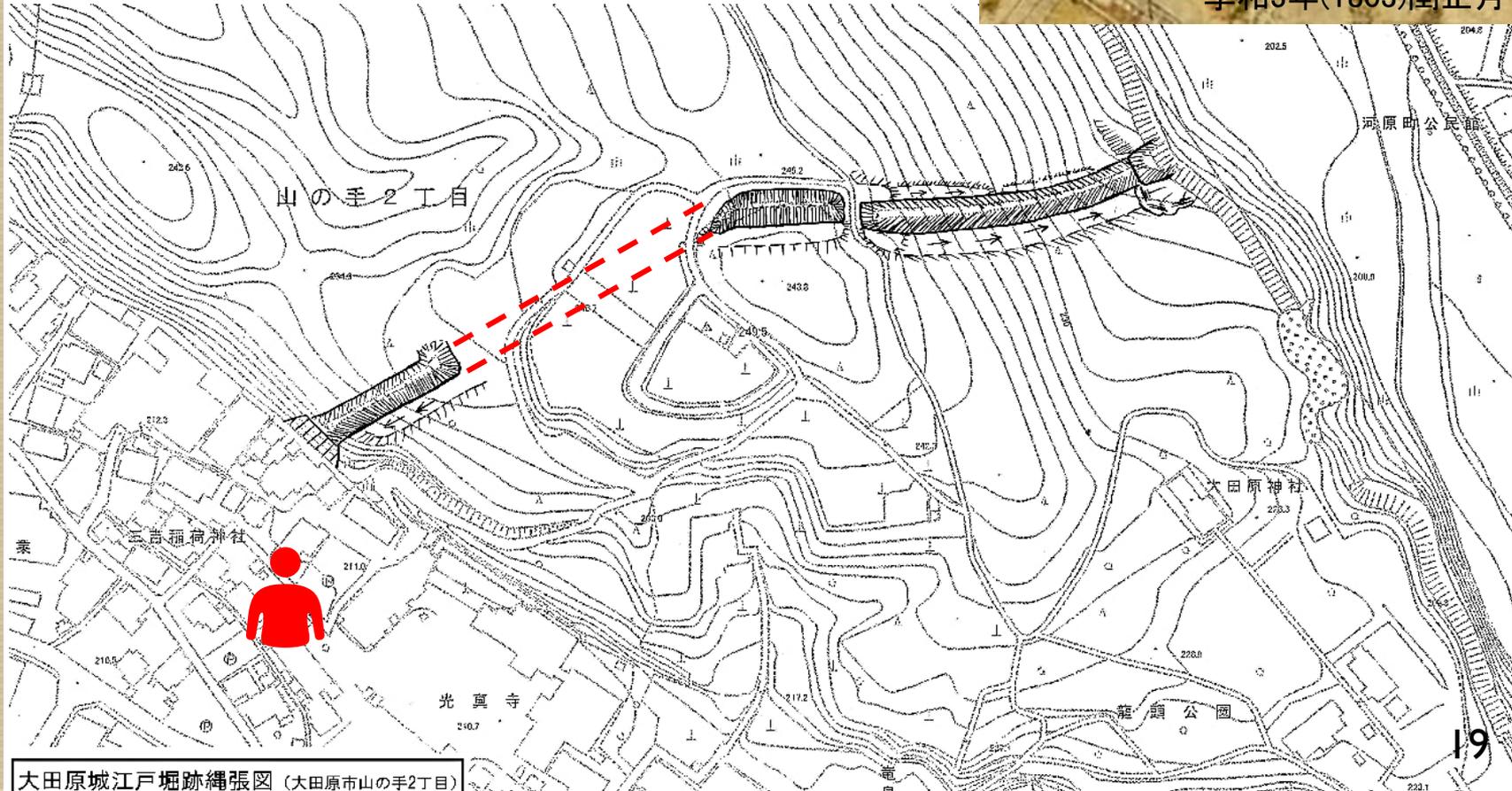
享和3年(1803)閏正月

◎大田原城江戸堀跡

- …光真寺の裏山にある堀切の遺構。
- 慶長5年(1600)に普請？
- 幅8～12m、深さ5m～7mの堀で台地を分断。
- 現在は1/3ほど埋没。
- 近世初期の奥州道中とも伝わる。



享和3年(1803)閏正月



大田原城江戸堀跡縄張図 (大田原市山の手2丁目)

◎大田原神社(温泉神社)

- 大同2年(807)創建、那須郷温泉神社下宮。
- 天文12年(1543)頃、水口→大田原城への移転に際し三の丸に祠を建立。
- 某年、参拝の便を図るため、城の東麓「青淵ノ里」に遷座。
- 某年、城の防備のため蛇尾川流路を変更し中田原中宮(湯泉坂)に移転。
- 元禄6年(1693)、大田原典清が「中田原温泉大明神」の社殿再興のため、湿地から山上に作り替える。(人見家文書「大田原温泉神社棟札写」)
- 文政元年(1818)、下町が奉納屋台を新調。(付け祭りとしての屋台行事最古の記録)
- 明治37年(1904)、現在地に大田原神社の社殿・社務所造営着手。

